

# 平成23年度 【 学園研究費助成金<B> 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ハシモトマサヨシ  
氏名 橋本雅好

研究期間 平成23年度

研究課題名 大型テーブルにおける利用行動特性からみた心理的領域に関する実験的研究

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	橋本雅好	生活科学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

身体の周りには目に見えない心理的領域（パーソナルスペース）が存在し、これまでに多くのパーソナルスペースに関する実験・調査がおこなわれ、一定の成果を挙げている。しかし、パーソナルスペースと室内空間を演出するインテリアエレメント（机、椅子、間仕切など）との関連性について検証した研究はまだまだ未検証の部分が多い。そこで本研究では、大型テーブルでの場所利用行動と心理的領域との検証をおこない、既往研究との比較を合わせて実施することで、多人数が使用する大型テーブルにおける心理的領域の形状について、実物大実験によって検証し、今後の室内空間計画のための一指標を得ることを目的とする。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

調査内容は、1.大テーブル使用後の人物配置と机上の写真撮影。2.印象評価と持込物に関するアンケート調査(実態アンケートと想像アンケート)。調査期間は、平成23年9月5日(月)~11月21日(月)の間の計20日間とし、調査場所は、橋本雅好研究室(5320mm×4710mm、高さ3500mm)、使用テーブル:2250mm×1540mm、高さ700mmとした。調査対象者は、橋本雅好研究室大テーブル使用者とし、印象評価:以下1~3に示す項目に対する印象評価を調査した。1) 席の状況に対して「ゆったり感」「落ち着き感」、2) 相手との「距離感」に対して(他者がいる場合)、3) 心理的自我領域に対して「満足感」。一定時間、対象テーブルにて作業をおこなったことを確認後、人物・持ち物の配置等テーブル上の状況を調査者が天井より、定点魚眼レンズカメラ(RICOH GX200・ワイドコンバージョンレンズ DW-60)で撮影をおこなった。その後、実態・想像アンケートを配布・回収した。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

#### ■調査結果1 (座席間隔からの分析結果)

座席間隔と印象評価の関係では、座席間隔と「距離感・ゆったり感」において、座席間隔が広くなることに対応し、印象評価も高まっていく傾向がみられた。また、評価軸によって、座席間隔の影響度が異なり、「ゆったり感・満足感」が最も影響を受けやすく、「ゆったり感」の方が低評価になりやすいことがわかった。プラス評価に転じる境界にも違いが生じ、最も境界が高いのは、落ち着き感で800 mm以上、低いのは距離感で600 mm以上であった。

#### ■調査結果2(心理的自我領域からの分析結果)

心理的自我領域と印象評価の関係では、心理的自我領域と「ゆったり感・落ち着き感・満足感」において、心理的自我領域が広くなることに対応し、印象評価も高まる傾向が見られた。また、評価軸によって、心理的自我領域の影響度が異なり、影響を受けやすい軸は「満足感」であることがわかった。プラス評価に転じる境界にも違いが生じ、最も境界が高いのは、ゆったり感で250000 mm<sup>2</sup>以上、低いのは距離感で170000 mm<sup>2</sup>以上であった。

#### ■調査結果3(人数からの分析結果)

利用人数6人～9人の場合、座席間隔と印象評価の関係では、「距離感・満足感」関係性において、人数の増加に伴い、座席間隔が狭くなり、評価も悪くなることが明らかになった。また、評価軸により影響度が異なり、影響を受けやすいのは「満足感」であることがわかった。

利用人数2人～9人の場合、心理的自我領域と「満足感・距離感・ゆったり感・落ち着き感」において、一部範囲のみ、人数の増加に伴い、心理的自我領域が狭くなり、印象評価も悪くなることが明らかになった。「満足感・ゆったり感」が最も影響を受けやすく、「ゆったり感」の方が悪い評価に影響を受けやすい事がわかった。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①大テーブル	②座席間隔	③心理的自我領域	④満足感
⑤ゆったり感	⑥距離感	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

日本建築学会大会への口頭発表に投稿予定である。